



最上エコボリスの実現
=豊かな自然 輝くもがみ=

小国川だより

流域の皆様に最上小国川治水対策について、わかりやすく正確にお知らせします。

小さなダム・大きな仕事 最上小国川ダム

第17号

平成22年1月20日発行

山形県 最上総合支庁
建設部 河川砂防課

新年あけましておめでとうございます



雪の瀬見温泉

ダム事業箇所数一覧

	国直轄	水機構	道府県	合計
全体事業箇所	45	8	83	136
検証対象箇所	26	5	58	89
継続箇所	19	3	25	47

「水機構」とは、独立行政法人 水資源機構のことです。

最上小国川ダムは、 検証対象となりました

12月25日に、国土交通省からダム事業の検証対象箇所が発表され、最上小国川ダムは検証対象のダムとなりました。

知事は28日の記者会見で「これまで、流域住民の安全・安心の確保のためには穴あきダムが必要だということを、機会あるごとに主張してきた。今般、検証の対象に区分されたことは、誠に遺憾である。」と述べた上で、この検証を行う考えであることを示しました。

今回、事業の検証対象となったのは、11月までにダム本体工事の契約を行っていない箇所などで全国136事業のうち89事業が対象となりました。

検証については、凍結を意味するものではありません。国は「今後の治水対策のあり方に関する有識者会議」を開催し、今年夏頃に新たな基準を示す予定です。この基準に沿って、検証を行ってまいります。

県はこれからも、流域住民の安全・安心を確保するため、揺るぎなく治水対策を推進してまいります。

第4回最上小国川流域環境保全協議会の内容をお知らせします



前号では、第4回環境保全協議会の内容のうち、「1）第3回協議会における指導事項と対応」と「2）今年度の環境調査状況（中間報告）」について、ご説明いたしました。

今回は「3）環境影響予測の考え方」と「4）流水型ダムの先行事例紹介」についてお知らせいたします。

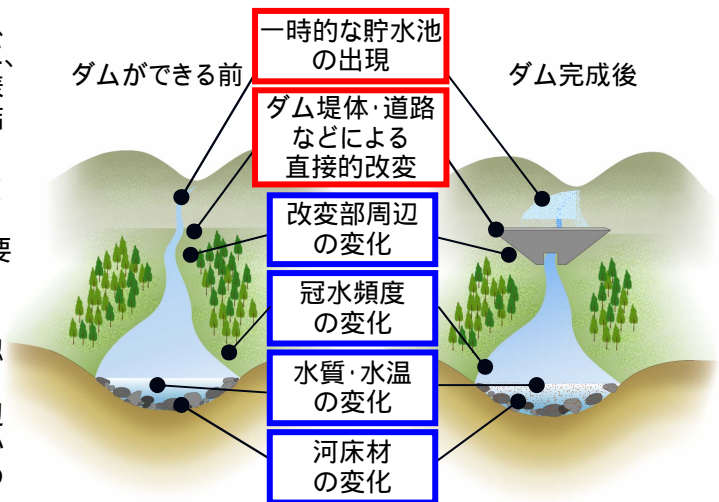
3）環境影響予測の考え方について

環境調査の結果から、環境省のレッドリスト、「レッドデータブックやまがた」などを参考に、重要な種を選びます。次に、ダム建設に伴う様々な環境影響を予測・評価します。その評価結果を基に、保全が必要かどうかを検討します。

動物は1,708種が確認され、そのうち重要種は65種でした。また、植物は896種が確認され、そのうち重要種は30種でした。

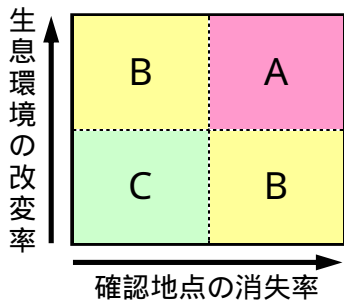
次に、それぞれの重要な種が生息している場所と、事業により改変する場所との関係を確認します。

具体的には、その動植物が生息するための周辺環境（図の青枠部分）にどれだけ影響が出るかということと、その動植物が生息する場所そのもの（図の赤枠部分）が、どれだけなくなるかという割合で考えます。



【図 - 1】 事業にともなう環境の区分

【図 - 2】 工事に伴う影響検討



C	確認地点の消失率が小さい かつ 生息環境の改変率が小さい	影響 小	対策不要
B	AもしくはCの領域以外 (消失率・改変率の一方が大きい)	影響検討	生態から判断
A	確認地点の消失率が大きい かつ 生息環境の改変率が大きい	影響 大	保全が必要か 検討

【確認地点の消失率】とは、
動植物が生息生育している
場所が、失われる割合。
【生息環境の改変率】とは、
動物などの餌場や行動範囲
となる場所が、変わってし
まう割合。

図のA「影響大」と判断される場合は、必要に応じて対策を検討します。
Bの場合は、それぞれの生物を個別に検討して、影響の大きさを判断します。
Cについては、影響が小さいため、対策を講じる必要がないと判断します。

動植物への影響が大きい小さいかについては、それぞれの専門家に
ご意見を伺って、最終的な評価をしていきます。

環境影響予測の考え方について、説明した結果、この方法で進めること
になりました。

保全対策事例の紹介

他でおこなった保全対策の事例を紹介しました。
最上小国川ダムでは、このような事例も参考にし
ながら、今後、具体的な対策を決めていきます。
工事時期の配慮
クマタカなどの産卵前や育雛期の最も敏感になる
期間では、大型工事機械の使用自粛や、騒音の少
さい工法・機械を使用するなどの配慮をおこなう。

コンディショニング（馴化）の実施
段階的に機械を稼働したり、徐々に工事規模を
拡大するなどして、建設環境に慣れさせて影響
を小さくする方法でおこなう。
両生類の人工産卵池などの整備
効率的・効果的なモニタリング手法の検討

4) 流水型ダムの先行事例紹介

流水型ダムは、以前から農地防災用のダムで実施例
があります。岩手県雫石町にあるレン滝ダムは、この
タイプのダムです。
協議会では、レン滝ダムについて紹介しました。レン
滝ダムの規模は、右のとおりで、最上小
国川ダムと同じような規模です。

	レン滝ダム	最上小国川ダム
ダム高	37.7 m	41.0 m
ダム長	170.0 m	143.0 m
完成	昭和43年	-

8月28日にレン滝ダムの現地調査を
行いました。その際、梅田委員も調査に
参加されましたので、調査結果について、
次のような感想を述べていただきました。



【梅田委員】(東北大学大学院工学研究科[専門分野；環境水理学]准教授)
ダムができた後、下流部の河床の状態が変化するというような影響と
いう点ではだいぶ小さいという印象を持ちました。
ダムのすぐ上流部や、流れのわきの部分には、土砂や砂が少したまっ
ているところもありましたが、流れの中は砂などがなく、レキ(小石)が
出ていました。出水時の影響についてもう少し検討していく必要がある
のかなという印象を持ちました。

レン滝ダムの「出水時調査」と「付着藻類調査」も行いました。
この結果を基に、最上小国川ダム完成後の河床材料(砂利など)の変化
予測、出水時の水質の変化予測をおこないます。また、藻類の比較検証
のための基礎データとします。
貯留型のダムがある場合、下流河川は細かい砂などが少なくなる(粗
粒化)ことがあります。レン滝ダムは、完成後40年以上が経ちまし
たが、下流河川では、このような状況はみられませんでした。

発行：山形県 最上総合支庁 建設部 河川砂防課
最上小国川ダム建設室 佐藤・高橋
〒996-0002 山形県新庄市金沢字大道上 2034
お問合せ先 電話 0233-29-1407
Email - 【前画面を参考にして下さい。】

バックナンバーは県HPからダウンロードできます。
アドレスは下記のとおりです。
http://www.pref.yamagata.jp/regional/mogami_bo/news/news/7314074ogunigawa_news.html